

「イエス・キリスト」
ルカによる福音書 23 章 32-43 節

死刑の判決を受けたイエスは「されこうべ」と呼ばれる場所まで引いていかれ、そこで二人の犯罪人と一緒に十字架にかけられました。その十字架の上で、イエスさまはこう言われました。「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分ではわからないのです。」

ユダヤの指導者たちはあざ笑って言いました。「他人を救ったのだ。もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うが良い」。また、ローマ兵も同じようなことを言ってあざけりました。「お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ」。彼らは言うのです。「お前は救い主ではないのか。だったらなぜ自分を救えないのか、自分を救えない者がメシアと言えるのか」。さらには、イエスさまと共に十字架につけられた犯罪人の一人も、「お前がメシアなら自分自身と俺たちを救ってみろ」と迫るのです。そして、「どうせ、そんなことはできっこないだろう。だからお前はメシアでも何でもなし」、そう言って、ののしるのです。

「自分を救ってみろ」。そのあざけりの言葉が、さざ波のようになって人々の間に広がっていきました。

しかし、その人たちのためにイエスさまは言われるのです。「父よ、彼らをおゆるしてください。自分が何をしているのか知らないのです。」なんという祈りでしょう。私たちの胸を打たずにはおれません。イエスさまは十字架の苦しみの中で、ご自分を十字架につけた者たちのために父なる神に執り成しの祈りをされたのです。

私たちは、このイエスさまの祈りを、この私のための祈りとして聞いているでしょうか。聖書は、そこに登場する人物を通して私たち人間の現実を示しています。ともすると私たちは、この世の権力に説得され、影響されて、救い主として迎えた方を舌の根の乾かぬ内に「十字架につけろ！」と叫んでしまう群衆の一人かもしれません。イエスさまとバラバを並べて、より自分の望む結果をもたらしてくれそうな方に目がくらんで間違った選択をしてしまう者かもしれません。

しかし、イエスさまは、たとえご自分を直接的に十字架に架けるような人であっても、あるいは利己心ばかりに目を注いだり、ご自分をあざけったりする人であっても、そのすぐそばにおられ、祈り続けてくださっているのです。しかも、本来、十字架につくべきは私たちであったのです。その罪も分からずにいる私たちのために、主イエス・キリストは私たちに代わって十字架につかれ、その私たちのために祈ってくださるのです。「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」。

私たちは、悔い改めたから赦されるのではありません。自分の罪に気づき、その罪を償ったから赦されるのではありません。神さまがなさったことは、私たちが自分の罪を知るよりもずっと前から、赦しを与えてくださっているのです。自分の罪に気づく前から、悔い改める前から、主イエス・キリストの祈りによって、父なる神さまによって、すべて赦されているのです。

そして私たちは、この主イエス・キリストの赦しを知る時に、本当の意味での自分の罪を知り、悔い改めるのです。赦された罪を知るのです。だから私たちは、確信することが出来る。私たちがどんなに深い罪を犯しても、神の愛を妨げることはできないことを。

このイエスさまの執り成しの祈りによって、心の向きを変えられる人がいました。それはイエスさまと一緒に十字架につけられた犯罪人の一人でした。

「父よ、彼らをお赦してください」。彼は、その言葉の恵みを受け取ったのです。そこにイエス・キリストの愛を感じたのです。そして彼は言います。「イエスよ、あなたの御国においでになるときは、私を思い出してください」と。その人に対してイエスさまは、「はっきり言うておくれが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と語られました。このイエスさまの宣言は、「あなたの願いのとおりにしてあげよう」という程度のもではありませんでした。また、やがて来る「いつか」ではなく、「今日」この日、いまここにおいて、それも思い出すと言った程度ではなく「わたしと一緒にいる」という確かな約束をしてくださったのです。

ここでは「天国」ではなく「楽園」、パラダイスという言葉が使われています。この言葉から想像できるのは創世記に記されているように最初の人間が神さまと共に暮らした場所です。けれども人間は罪を犯すことにより、この「楽園」から追放され、祝福を奪われてしまったのです。今日、イエスさまは、ここで人間が失ってしまったその「楽園」に私たちを導くと語っておられるのです。「楽園」とは人間と神さまとの関係が回復されるところです。つまり、今この瞬間から、主イエスと共にいる命が始まっているというのです。

私たちは、今もイエス・キリストのとりなしの祈りのゆえに生かされています。イエスさまは、ご自分を信じる者とも、信じない者とも、十字架の上で共に立ち、「父よ、彼らをお赦してください」と祈られる。この主イエスのとりなしのゆえに、私たちは繰り返し失敗しても、繰り返し信仰が揺らいでも、立ち上がってやり直すことができるのです。そうして私たちは、絶えることのない神の恵みを知ることができるようにされるのです。